



園内で栽培してきたじゃがいも、玉ねぎ、豆、そして人参を使ったカレー会食を行いました。

5歳児が先日、近所のスーパーにカレールウの買い物にも出かけていってくれました。



大津市立田上幼稚園
令和8年7月2日
保育主任通信 松尾 誠史
page_20



包丁を使って具材を切っていきます。3・4歳児が憧れのまなざしでクッキングする姿を見えています。

職員と協力しながら、園内でカレーを調理していきました。あたりにはいい香りが漂っています。



田上の豊かな土で育まれた実りある新鮮な野菜と、子どもも大人もみんな愛のこもった調理で、おいしく会食することができました。

「もう一回食いたい」「あじさい組になったらやってみたい」「持ってきたご飯が少なかった」など、いろいろな声が聞こえてきました。

ううん。●●くんも畑の人参分けてくれてありがとうね。

〇〇ちゃん、ありがとう。カレー作ってくれて。

料理をして会食をリードしてくれたのに“みんなの力でおいしく食べられたね”という気持ちが言葉に現れていたほほえましい一幕でした。





台風前的大雨で、庭には大きな水たまり。傘をさしつつ長ぐつで、ピチャピチャ入って登園です。

お昼頃、その後も強まる雨の勢いに、Aちゃんが言った一言は、「なあ、先生、雨やばいなあ」でした。



大津市立田上幼稚園
令和8年7月2日
保育主任通信 松尾 誠史
page_19



いつもと違う空模様に心を動かされ、驚きを伝えてくれたことが嬉しかったです。

「すごい・強い・怖い・大変だ」そういった言葉が「やばい」に現れているのだと思います。

しかしながら、何でもかんでも「やばい」と言うよりも、美しい日本語や豊かな表現を…と願っています。

そこで、Aちゃんの「先生、雨やばいなあ。」に、私は「本当だね。バケツの水をひっくり返したみたいに雨が降ってるなあ。」と、(こんな言い方もあるんやで)と返すと、

Aちゃんは私の言葉に対して、「ほんまやな。っていうか、100個のジョウロで空から水やりしてるみたいやんな」と独創的でユニークな表現をして返してくれました。直感や発想が秀逸です。

大人の言葉を吸収して、自分なりの表現に仕立て直したAちゃんのセンスに脱帽しました。



嬉しいときにジャンプすることがありますね。しかし、ジャンプすると嬉しくなるものでもあります。

うさぎになってトランポリンで跳びはねています。ジャンプは全身の筋力や体幹の育ちにも楽しみながらつながります。

【自分ほどの背の高さの巧技台へのよじ登り】



よじ登りやジャンプなどの体全体を使う遊びは、着地時に足首やひざ、股関節を柔らかく曲げながらバランス感覚を養います。また、空間認知能力や危険を予測する力も身につきますね。挑戦心や恐怖心をコントロールしながら、自己効力感や達成感にもつながっていくことと思います。





夏が始まった、そんな合図を鳴らすような気持ちのよい水鉄砲のしびき。

今年、2026年のプールびらきに現れたのは…。



大津市立田上幼稚園
令和8年6月23日
保育主任通信 松尾 誠史
page_18



幼稚園のプールびらきに荘厳な音楽のもと、子どもたちの健康と安全な水遊びの活動を願い、水の女神様がやってきてくれました。あじさい組の先生の双子の妹といううわさも…。

女神さまからありがたい安全に遊べる魔法の水を手に取り、一人ひとり、プールにまいていきました。

「メガミさま、ありがとう！」
「なあ、なんかいい匂いするー。」
「ほんまや！なんかお風呂の感じ？」



そんな私たちが遊ぶプールから救い出したオタマジャクシ。掃除の時以来、クラスで世話をしています。

毎日ちょっとずつ餌をあげて、見守っているうちに、飼育水槽の淵に登るまで成長しました。

このままでは生きていけないからということで、過ごしやすいところに逃がし、お別れをしました。



シロツメクサの茂る新しい土地に放ったのに、なかなか別れられません。それもそのはず。とっても可愛いのです。

「見て見て！手で草をつかんでる！」
「かわいい！」

各クラスの飼育水槽にはまだオタマジャクシが元気に泳ぎ、それぞれ足が生えたり、手で石に登ったりしはじめています。みんな元気なカエルになってくれるといいですね。

自然や小さな生き物に触れ、心を動かし、命を慈しむ気持ちを育ててほしいと願っています。





「こんなにいっぱい!」「ここにもあったよー!」「まだあるかなー?」
園庭の隅で“タコさんウインナー”を見つけた 3 歳児。同じかわいい形がたくさんあるので思わず集めたくになりますよね。



大津市立田上幼稚園
令和 8 年 6 月 18 日
保育主任通信 松尾 誠史
page_17



花壇の淵にたくさん整列したタコさん。なんだか何かを待っている行列のようです。

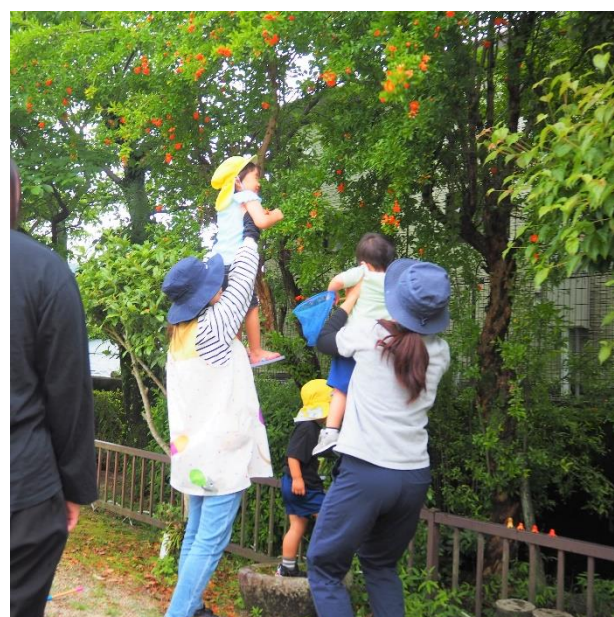
どうしても木の上のタコさんが欲しくて、抱っこしてもらう子どもたち。

我々の先輩にあたる、その昔の先生たちが、未来の大津の子どもたちのこと、つまり今の園児のことに思いを馳せて植えられた木々です。

葉を茂らせ、花を咲かせ、心躍る実をつけ、季節を感じさせてくれます。

時代が変わっても、変わらない大切なものがありますね。

※タコさんウインナーはザクロです。



「ペタクリコだよ、ペタクリコ!」
と寒天の感触を楽しみながら思わず言葉が出る子ども。おそらく先日まで触っていた片栗粉の遊びからそんなネーミングを発想したのでしょうか。
少し前まで冷蔵庫に入れていたので冷たくて気持ちいいのです。

まるでゼリーのようです。崩すとその場では固まりはしないのですが、色の混ざり具合や透明感、そして柔らかい感覚がやみつきのようになっていました。

